

つながりあうこせうら

第7号 2008.2.1 発行：琴浦町同和教育推進協議会



第8回赤碕中学校部落解放文化祭 解放劇「大タブの木」の一場面

(第3回琴浦町人権・同和教育推進大会 実践発表において、
赤碕中学校部落解放文化祭での発表の様子を上映)



人権・同和教育推進大会 講演会の一場面

人権・同和教育推進大会 (2・3面)

あかさき部落解放文化祭 (4・5面)

部落解放文化祭(東伯) (6・7面)

同和教育部落懇談会 (8面)

第3回琴浦町人権・同和教育推進大会

とき 二〇〇七年十二月九日
ところ カウベルホール

テーマ

「差別の現実から深く学び、

人が人として尊重される社会を実現しよう」

実践発表

解放劇

『大タブの木』

今大会の実践発表は、九月八日に赤碕中学校で行われた「第八回赤碕中学校部落解放文化祭」での、解放劇『大タブの木』を上映するとともに、劇に携った先生や生徒の熱い思いを発表していただきました。

放への意欲を高めるとともに、全校生徒や保護者そして全町民に対し、一人ひとりを大切にすること、そのために部落差別をはじめあらゆる差別を許さず、なくしていかなければならないことを訴えています。

解放「学習会」生徒による解放劇の取り組みは、一九八六（昭和六十一）年度から始まり、本年度で二十二回目を迎えます。この取り組みは、被差別部落出身生徒の部落解



【生徒発表より】

今回の解放劇は、出上の象徴である「大タブの木」が見てきた村の出来事を、先輩たちが残してくれた紙芝居を基に脚本を作り、演じたものです。

何本もの木が重なり合っている一つの木を形成している「大タブの木」の姿から、支え合って生きていくことが、人間本来の姿ではないだろうかと考え、支え合う仲間の姿や、その根底にある思いを、この劇で伝えたい、そして、観ている人が、自らを振り返ることのできる劇にしたいと考えました。

また、劇で取り上げた「小集落地区改良事業」や「ほ場整備事業」などは、環境改善のため、村の人たちが互いに協力し

合い取り組まれた事業です。これらの取り組みが、出上のためだけではなく、周辺地域や町全体を良くするためでもあることや、部落差別だけでなく大火事や自然災害から、人々の命や笑顔を守ろうとした村の人たちの温かい心を伝えたいと考えました。



本来、人は優しさを持って生きています。一人ひとりが大切にされるべき存在です。しかし、そのことを忘れ、周りの人を大切にできない人が増えていくように感じます。私は出上の人が特別すごいわけではなく、人として当たり前のことをして

きただけだと思っています。私は出上に生まれて本当に良かったと思っています。私は出上に生まれました。部落差別をさる立場になりました。しかし、そのことを恨んだり、悩んだりしたことはありません。部落差別をはじめ様々な差別の撤廃に向けた村の人たちの思い、熱意、優しさを見てきているからです。そして何より、この村での生活が楽しいからです。家族や村の人から、大事にされていると感じているからです。私は出上に生まれたことを誇りに生きていきたいです。

今の社会には、部落差別をはじめ様々な差別が存在しています。しかし、差別を憎み本気でなくしていこうとみんなが考え、行動に移していけば、絶対、差別はなくなっていくと思います。

講 演 『人権の時代と同和問題』
 林 力 さん (九州大学非常勤講師・社会学博士)

「人権の時代が来た」とよく言われている。確かに、人権という言葉は広がってきた。

一九六五年に同和对策審議会答申が出て、同和問題を国民的課題とし、国及び地方自治体が、責任を持って解決するという方向が打ち出された。

当初は、まさに同和問題を解決する取り組みから始まった。けれど、同和問題の解決は、日本国民全体の人権水準を引き上げることなくして、その解決もない。日本固有の差別に焦点を当てながら、人権確立をそれぞれの立場で、努力してきたことが、「人権の時代」に大きな役割を果たしてきた。これをまず、踏まえないといけない。

だが現在、本当に人権感覚が鋭く、人権が保障された社会なのか。

例えば、なぜ人は、かくも人を殺すのか。人が人を殺さない日はないような国になってきた。そして、自殺者が増え、一九九八年から三万人を超えつつづけている。

また、「部落差別はなくなった」などと言う人がいるが、法律が失効したのであって、インターネットを見れば、間違いであることは一目瞭然。インターネットの世界、つまり「顔の見えない社会」で激しい差別が行われている。

それから、若者たちが、ホームレスの人を襲撃する。インターネットを利用していじめ、虐待など

「命が大事」と言う。事件があると校長先生が全校生徒を集めてそう言う。それはそうなのだが、前提として認識しておかなければならないことがある。それは、命が見えにくい世の中に私たちは生きていくということである。



をする。自分は他人に比べ、偉くて有能だと思いが込んでいる。そんな若者が出てきた。

これらにはいろんな原因があると思う。一つには、格差が非常に広がったことだろう。小泉さんの時代は、盛んに格差を広げた。格差社会の中で、当然ながら、差別は広がってきている。

「命が大事」と言う。事件があると校長先生が全校生徒を集めてそう言う。それはそうなのだが、前提として認識しておかなければならないことがある。それは、命が見えにくい世の中に私たちは生きていくということである。

人間はいつか死ぬ。そのことを、幼い頃から体験させておくこと。人間は、生き物であることを忘れ、人間だと、のぼせ上がっている。人間は、他の生き物の命をもらって生きているのだという謙虚さ。そんな教育感を、昔の人は持っていた。

もう一つ気がかりなこととは、日本人が、日本語を上手に使えなくなった。若者ほど言葉の数が少なくなかった。例えば、相手に自分の思いを伝える時、今の人たちは機械です。携帯で、好き、大好き、愛してる。そして、ラブマークを並べる。

日本人は、人を好きだと思う時、いろんな言葉を知っていた。言葉を知っているということは、その情感を持っているということ。そして、微妙な違いを感覚として持っていた。それだけ豊かな

感性を持った日本人だった。

言葉の数が少なければ、どうしても物の考え方は単純になる。多く持っていれば、その言葉を使い、まず自分がどのような者か捉え、その自分を人に表現していくことが可能となる。

もう一つ言いたいのは、この状況の中で、問いと答えの間が、短くなっているということ。言葉が少ないから、問題の答えを出すことに非常に短絡で、時間がかからない。「憎いから殺す。欲しいから盗る」とものの考え方が、大変単純になってきた。

日本人は、日本語を大事にして、自分の言うことを人に伝える力。そして、人の言っていることを受け止める力。それを持たなければならぬと思っている。

第二十二回あかさき部落解放文化祭
《未来を創造し、自らが解放への情熱をたぎらせて》

二〇〇七年十一月十七日、十九日の三日間、町立赤碕文化センターを会場に開催しました。三日間を通じて約千二百人の方が来館され、大変賑わいました。



【子ども祭り】オープニングは、赤碕中学校生徒のダンス。



【子どもみこし】「一人ひとりを大切にする仲間」「いじめのない仲間になるう」など解放「学習会」で学んだことを振り返りながら取り組んできました。

【解放教育講演会】
「どんなときにでも人間性の大切さを」
講師 下原隆資 さん

私は、中学生のとき、広島に投下された原子爆弾により被爆しました。顔や体に傷を負い、命は助かったものの、今でも放射能の後遺症とたたかっています。

戦争は絶対にしてはいけない、許されないという思いの中で、教師になり、多くの子どもたちに、戦争の醜さや、戦争が最大の差別であることを伝えながら、自分自身も解放運動と平和運動に関わってきました。

しかし、戦争で顔や体に大きな傷を負ったにもかかわらず、放射能がうつるといふ残念な差別意識に幾度となく悲しい思

いをしてきました。

私たちの生活の中にある差別意識の原因として、真実を知ろうとせず、噂だけを信じてしまうという現状があります。

人は、一人で生きていくのではなく、多くの人の関わりによって生きています。だから一人ひとりの命を大切にしながらつながっていくことが必要です。



【バザーコーナー】

外ではみぞれ交じりの中、餅つきや、コーヒー、から揚げ、内では、うどん・お茶・くじなどたくさんの人に協力いただき、最後まで盛り上がっていました。

【年長児交流会】



赤碕中学校区五つの保育園から集まった子どもたちは元気な声で歌い、自分たちの園の紹介をしたり、初めての友達との交流に笑顔いっぱい楽しんで触れ合っていました。

また、保育士の人形劇では、普段の生活から人は支えあって生きていくことが伝わりました。



【演芸会】隠れた特技の持ち主ばかりで、会場は爆笑の渦。団結のすばらしさを感じました。

【小学生学習発表会】

○安田小学校六年生「解放子ども会の歌」についての発表（抜粋）

*「荊冠旗」…外側のトゲは、社会の差別に対するたたかいのトゲの意味。内側のトゲは、自分の心の中のたたかい（楽な方に逃げようとする自分や、つい友だちにきつい言葉を言ってしまう自分、壁にあたつたときすぐあきらめてしまう自分）を表している。

*「輝く歴史」…わたしたちが学習してきた『成美橋』教科書無償のたたかい』のような大きなことだけでなく、日ごろの小さなことも「輝く歴史」に含まれている。日々の母や父たちがやってくれている仕事など、どれもみんな子どもたちに、幸せであってほしい、命を守りたい、明るい未来を築きたいという願いが込

められている。

*この学習をとおして学んだこと...人は一人で生きられない、誰かの支えで生きている。以前は「差別なんて...」と思っていた。でも、大切な仲間が、被差別部落に住んでいることを理由に差別されることがあれば、絶対に許さない。

ゲストティーチャーのお話においても、今の自分がいるのは、たくさん先祖が一生懸命「いのち」をつないできたから、そして、まわりの人たちがいろいろなかたちで、私たちを支えてくれた。一人ひとりの「いのち」の大切さ、人と人がつなが

命懸けで一生懸命生きよう！



りあうことのすばらしさ、差別することのおろかさを学んだ。人のことを考へて行動することは、ほんとうにすごいこと。わたしたちも人を大切にしていきたい。



○成美小学校六年生 解放教育意見発表(抜粋)

☆私はこれからの未来にどんな差別もあつてはならないと思います。差別は簡単になくせるものではないありません。だからこそ、差別に立ち向かう強い心を持たないといけません。

今の私は噂に流されたり、おかしいと思つても人の目が気になつて自分の意見が持てなかつたりします。これからは、話し合い、自分の考えを持つて、自分の中の差別につながらる考え方を少しずつなくしていきたいです。



みんなが集い、つながりあう文化センターの取り組みを発表している成美小解放「学習会」3年生

☆私は、仲間のことを考へているようで考へていないことが時々あります。軽く言つたつもりでも、相手は、何倍も悲しいことがわかりました。私も言われてイヤだったし、言つてもイヤです。でも、ためこまないで自分の思いを伝えてみると、相手も気づいて、前より関係がよくなりました。だから、おかしい、イヤだなと思つたことは、言つていきたいです。悪いところだけではなく、いいところも見つけて励ましあつて、高めあつていきたいです。

私の母も、部落問題について、一生懸命取り組んでいるので、私も母のように真剣に学習したいです。

☆私は思いを伝えたり、人とかかわりあうことが苦手でした。しかし、かわりあつていかなないと相手のことをよくわからないままだったり、自分のことをわかつてもらえなかつたりすると気づきました。相手がどう思っているのかばかり気にしていたら、何も話せなくなりません。思いを伝えるのは、仲間と認め合うために大切なことだと思います。

☆部落差別は、ぼくの一番身近にある差別なのでなくしていこうと思ひました。差別にまけない自分をつくるために、今、しっかりと学習しないと、いけないんだと思ひました。みんなの前で、自分の

意見を伝えたりして、自信もつけたいと思ひました。これからは何事にもねばり強くあきらめないようにしたいと思ひます。☆ぼくは、けんかをしたりしたけど、そのたびにみんなと話し合つて解決してきました。でも、仲間のことは少ししかわからないから、もっと分かり合える話し合いをしていきたいです。わかつてもらえないときは、あきらめず話していきたいです。何かをするときや困つたときに協力しあつていっしょになしとげたいです。話し合うことも大事だと気づいているから



なつとを学ばせてくれた。仲間と話し合つた。仲間の大切さ。

感情を出せる人になってほしい。そして人と人が架ける橋は同じ目線、同じ高さで架ける橋が一番強いのです。

♪君の橋
君の海に

涙いっぱいになったら
少し止まって休んでいこう

ゆっくり選べばいい
自分の歩く道を

自分の翼で飛ぶ
君の空がある

君の橋を架けよう
この河を越えて

ひとつのことでいいから
夢中で生きよう

講演後の感想

○久しぶりに素敵な歌声を聴き、感動しました。
○歌とトークをおりませ柔らかかに人の心に注ぎ込む講演でした。生きる明るさを感じました。再度の講演を願っています。
○これからは、説明だけでなく心を打つような講演

演が良い。小・中学生や若者にも聴かせたいと思った。

【夜の集い】

例年恒例のこの集いには、今年、文化センターの講座で練習を重ねた子どもヒップホップダンス、光太鼓、民踊教室、バンド演奏などが発表され、会場からも応援の手拍子を受けながら賑やかな会となりました。



【発表会】

小学生学習会の取り組みとして、各学年がテーマに添ってフィールドワ



ークで調べたりした成果を発表しました。自分たちの住んでいる村の先輩方は、人間を思う気持ちがとても深く、将来の子どもたちに住みやすい土地や道路を造ってきた事が分かりました。

そして、これからの自分たちがもつと自分や仲間との素敵なところを見つけ、あきらめずに生活していききたいとの決意を大勢の前で発表しました。

また、中学生は「教科書無償のたたかい」について、今、当たり前のようにもらっている教科書

は決して与えられたものではなく、子どもたちに教育をとという部落の人たちの熱い思いで勝ち取られたものだということを感じて発表しました。

このように部落解放運動によってすべての国民がその恩恵を受けていることを訴えました。

参加者の中に、生徒がとてもいきいきと演じていたので嬉しかったという声が聞かれました。



東伯区「同和」保育推進連絡会による劇「ねずみくんのきもち」は、『みんなちがっていい、大切なのは相手のことを思いや



ること』をテーマとし発表されました。

私たちは一人では生きられない存在、人とのつながりが嬉しいと感じられる社会になるようにと熱演され、会場の参加者も真剣に観覧されていました。

今年文化祭開催時期を変更した初めての年でした。就学前の子どもから大人までみんなで取り組んでいくことで培われる人権尊重社会実現のため、さらに行動していき、人と人とが出会い、つながる喜びの輪を広げて生きていきましょう。

2007年度 同和教育部落懇談会

テーマ 一人ひとりが尊重され、心豊かにつながりあうまちづくりをめざして
安全で安心いへんがせの地域へへのために、何をすべきか

今年度の同和教育部落懇談会（小地域懇談会）が2月から各部落で開催されます。

同和教育を通して、自分や地域が変わってきたことを実感する人が増えてきています。「生まれて良かった」「一人ひとりが大切にされる」そんな地域を、琴浦町を、築いていくうえで、懇談会を大切な会と位置づけ、みんなが参加し、自らの思いを語り合ひましょう。

本紙では、琴浦町同和教育推進協議会作成教材のねらい等を紹介し

安全で安心いへんがせの地域へへのために、何をすべきか

なお、各部落の懇談会の日時・場所については、部落放送などでお知らせしますので、ご確認ください。誘いあわせてご参加ください。



【懇談会のねらい】

人は誰もが、周りの人たちと喜びをわかちあい、幸せに生きたいと願っています。これまで、同和

教育部落懇談会では、部落問題を中心課題としながら、一人ひとりを大切にしあうまちづくりをめざしてきました。

今年の同和教育部落懇談会は、性別に関係なく、誰もが一人の人間として、お互いに尊重しあえる地域になっているかを考えます。

わたしたちは、他者と関わる時、その人の生まれや、性別、どこに住んでいるかなどで偏見や先入観を持って接していません。これで、また、世間体を気にして、黙って

周囲に従う状況もありはしないでしょうか。偏見により人を判断したり、世間体や非合理的な慣習、しきたりにとらわれ生活することが、部落差別をはじめあらゆる差別につながっています。

お互いに自らの思いを語り合い、受けとめあえるつながりを大切に、身近な生活の中で、部落問題をはじめあらゆる人権問題の解決に取り組める地域づくりをめざします。

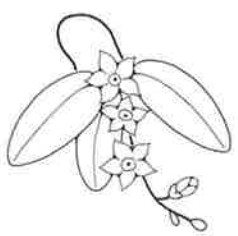


【本人に責任がないことで、差別することは非合理である】

誰の子に生まれるか、どこの地に生まれるか、女性に生まれるか、男性

に生まれるかなどは、本人の意思ではなくたまたまの結果です。

しかし、自分が、このたまたまの結果に捉われ、本人に責任がないことで、偏見を持って人を見たり、差別することがないかを考えましょう。



【人権課題を解決し、住みよい地域へ】

おかしいとは思っているが改めることなく残っている地域の慣習、自分が住んでいる部落の人権課題や、気づいていること、みんな考えていることについて、自分の素直な思いを出し合い、課題解決へ向けて、何ができるのかを語り合ひていきましょう。